

ナナミちゃんの農事通信

山梨県北杜市明野町で「雨と風と太陽と」
 「土と人情」に囲まれた。ナナミ
 ちゃんの「私、土の子」奮闘記

03.01シッ
 ポを立てて
 カッコイ
 イヨ!!
 キキ太



1 庭の桜咲く



←↑03.24満開の啓翁桜、母屋裏の林で一番早く開花、隣の河津桜も蕾膨らむ→八重紅枝垂れ桜(エドヒガン系)が咲き始めた。
 ←↓緋寒桜も満開間近、下向きに小さな花が一杯に咲く。



↑母屋バルコニーから花見を考えると植えたのですが?隅に植え過ぎ!!良く見えない。隣の向陽桜も咲き始める。



家の周りで桜が咲き始めました。老後に出歩かなくても花見が出来るようにと、苗木を植えたが? 枯れた苗木や大きくなって枯れた桜など色々です。



←↑03.24お宿前の生け垣に咲く富士桜、御衣黄桜が枯れて元木の富士桜?が伸びて咲いたのかしら。邪魔で切る予定でしたが。

目次

1 庭の桜咲く	1
2 ナナミちゃんのお宿は	1
3 畑仕事が動き出す	2
4 三月のお味	2

ハイライト

春分・次候3月26～30日「櫻始開さくらはじめてひらく」桜の花が咲き始める頃という意味。桜はバラ科の落葉性樹木で、主として北半球の温帯と暖帯に分布する。日本でも古くから愛され、奈良時代には単に花といえは梅をさしたが、平安時代には桜をさすようになった。「夢見



草」との別名もある。桜の開花は春一番を告げるものであるのと同時に、その年の農作業を開始する目安ともされた。「桜」で思い浮かぶ光景は?! 小中学校時代でも高校時代でもなく、三宅島で出会ったオオシマザクラの白花、ソメイヨシノの桜色を見慣れていたので違和感があったが、島に点在する古木に出会うたびに、ねじれた幹に風格を感じ、特に牧場の牛と桜の大木の風景が好きでした。当時のモノクロ写真が一枚、壁に残っています。

03.24ハナの好きなお立ち台、山桜の大木で

2 ナナミちゃんのお宿は

お宿の木々の剪定作業、花が咲いたり葉が出始めたりで季節の動きに追い付かず、背中が痛みで少し作業をしては終わる繰り返し、雨の日はホッとして農事通信を書いています。周辺整備をして、そろそろ不動産屋さんにもお願いしなければとも考えています。



↑03.22バッサリ剪定したレンギョウが満開に、残して良かった。維持管理は次の住人へ・・・



↑03.22剪定が大変なツゲは切り倒す。→03.24ナナミちゃんのお宿看板を外した。チョット寂しい・・・

3 畑仕事が動き出す

↓03.10畑で大豆の豆ガラや茎を焼き、しっかり消火



←03.15豆ガラを焼いた区画を耕す前に、カ力が草取り。耕さない畑の端も草取りをしておく。



03.10ネギ坊主が出始め一冬越ししたキャベツが巻き始めた。



←03.15ジャガイモ植えの区画の周囲を耕し一次にジャガイモ畝に合わせ耕して終わった。

春分も過ぎ木々の芽も膨らみ花も咲き始め、全て遅れていた畑仕事も動き始めた。動きが衰えてくる年齢



←ジャガイモ植えの畑を耕し終わり、次の区画へ管理機移動。カ力はキャベツに水遣りをする。



での骨折は回復も遅く、四カ月を過ぎても鈍痛は続き、それを口実にリハビリに精出さず、筋力は回復しない悪循環。啓蟄も過ぎ虫さえも動き出す季節、カ力一人に畑仕事をさせてはと動き出ししました。



カ力はキャベツ畝と玉ネギ畝に挟まれた区画に、消石灰と苦土石灰に石灰窒素をまく。



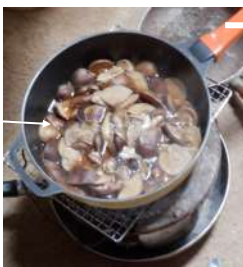
↑03.16庭畑の大きくなり過ぎたホウレン草を収穫。

↑03.16ナナミちゃんのお宿前の畑、手つかずだった白インゲンやインゲンの枯れた豆ツルを取り、ネットも外した。→枯れた豆ツルは焼き夕方に終了し、パイプフレーム解体は後日。



↑カ力は石灰類をまき終わり、用水路沿いの草取りをする。葉物が少しあるトンネル畝は収穫後に耕すことになって、背中が痛い何とか耕し終わった。

4 三月のお味



↑03.08庭で踏の臺を収穫

春の便り踏の臺が庭のアチコちに顔を出し、カ力は家の周りで収穫をした。まずは天ぷらで香りを楽しみ、毎年作る「踏味噌」作り。わが家の手作り味噌は、丹波黒豆で作った黒豆味噌を使います。味噌の塩気も加わり出来上がりの色艶と味も良い踏味噌に。

↑収穫した踏の臺を仕分け↑同時に椎茸佃煮作り

↑仕上げした踏の臺を計量し、調味料の黒豆味噌と砂糖の量を定める。

↑黒豆味噌と砂糖を煮込み、香りを残すよう大き目に切った踏の臺を入れ



↑文庫本を手に踏味噌が焦げないように、気長に混ぜ合わせる。

↑ユックリ混ぜ合わせ練って汁気を飛ばし、ほど良い硬さに出来上がる。

↑フキの香りと甘辛味パック詰め15個出来た。